2023年度まちスポ仙台助成金　採択団体の紹介

■団体について／団体名（上書き）

団体名：NPO法人UBUNTU
設立年：2018年
スタッフ：11人
取り組む課題：
重症心身障害児・医療的ケア児本人と
ご家族1人ひとりが自分らしい人生を過ごす
ことが出来るように、必要とするサービス
が提供できるようにするのと同時にリアルな
経験の積み重ねが出来る環境と連携づくり。

■申請事業についての紹介

【事業概要】

障害がある故に出来る仕事の範囲が狭まる子ども達が、実際に仕事を経験することで何かしらの感情ややりがいが生まれるマルシェ。同時に地域の人達に知ってもらう。

【背景・問題】
支援学校に通う重症心身障害児や医療的ケア児の子供たちは必然的に高校卒業後の進路が限られてしまっている。それは、子ども達自身ではなく、関わる大人が「仕事が出来ない」という前提であるためである。子どもたちの可能性は、経験を通して伸びるものであり、好奇心や興味があって成長を促せるものであるが、『障害』という認識がその可能性を抑えてしまっている。
【課題】
社会にあるあらゆる仕事を店頭で経験させてもらうまでにあたっての理解から仕事をするまでの難しさ。
【手段】
子ども達が販売主体のマルシェを開催し、1人ひとりの仕事の仕方を見つける。マルシェ出店者も子ども達と販売することで、『障害』を意識し何かしらの気づきを得てもらう。地域の人々にも子ども達の存在を知ってもらう機会を作る。

【事業の成果】
マルシェを実施したことで、子ども達が出来ることを発揮し、親御さん自身も『働く』をイメージすることが出来た。出店者自身も初めて障害のある子ども達と販売することで、刺激を貰いまた一緒に販売したいという声があり、次回の開催にあたっての繋がりを生むことが出来た。

2023年度まちスポ仙台助成金　採択団体の紹介

■団体について／団体名（上書き）

団体名：仙台シアターラボ
設立年：2010年
スタッフ：5名
普段の活動：演劇公演、アウトリーチ活動。

写真
（複

■申請事業についての紹介

【事業概要】
舞台芸術活動やワークショップの知見を通じて、子どもたち同士、施設、コミュニティを、よりダイレクトに、よりダイナミックに結びつけるための機会を創出し続ける。

【背景・問題】
「コミュニケーション能力」の育成には、従来の「学び」のあり方だけではもはや対応しきれない。外部講師や「コミュニケーション能力」の育成に特化した視点や考えを施設やコミュニティーに持ち込む必要があるが、現状その予算もない、考えもない、枠組みや制度もない。
【課題】
現場は、対処療法的に「起きたことに対処する」ということを繰り返しますので、その対処の結果や効果を外からの目線で把握し、さらに足りない部分や、課題を見つけることができる人材の不足。
【手段】
子どもたち、施設職員、コミュニティのを結びつけていくシステムを構築していく目線を持ち、継続的な「コミュニケーション能力」育成のためのワークショップを仙台シアターラボが実施。

【事業の成果】

施設が「コミュニケーション能力を育成する」という役割を、アーティストと共有し、協力体制を築き、推進することができるようになった。

2023年度まちスポ仙台助成金　採択団体の紹介

■団体について／団体名（上書き）

団体名：社会福祉法人あいの実
設立年：2005年
スタッフ：あいの実あばいん
事務局（久保潤一郎・阿部美穂・加藤佳奈・岩澤みさき）
普段の活動：居宅介護・重度訪問介護・医療型ショートステイ・放課後等デイサービス・児童発達支援・生活介護・計画相談支援・障がい児相談支援・あいの実クリニック・あばいんプロジェクト

■申請事業についての紹介

【事業概要】プレカフェセミナー！医ケア児ママのおしごとはじめプロジェクト

仙台に300世帯。医療的ケア児者を持つママたちの就労、社会参加、スキルアップを応援するセミナーを開催。SWCあいの実の『仙台あばいんプロジェクト』の一環となる事業を実施する。

【背景・問題】医療的ケア児者を持つママたちは、就労、社会参加、研修などが難しい。『外出が困難』『子どもの体調変化によるドタキャン』『心身ともに疲労』などの問題を抱え、孤立しがちである。孤立ゆえに社会との課題共有が難しく、就労はおろかスキルアップの機会も極端に少ない。

【課題】ドタキャン問題への柔軟な対応。ママたちの状況や希望の分析。地域社会との課題共有。協力者の不足。

【手段】2024年4月にオープンするカフェで働く6人のママを含め、医療的ケア児者を持つママに適合したテーマ、仕様のセミナーを実施する。企画、告知や報告の過程で課題周知を目指し、協力者を募る。セミナー後はアンケートを実施し、セミナーの効果や改善点を把握する。

【事業の成果】4回のセミナーとアンケートを実施し、医療的ケア児者ママたちから大きな反響があった。同業の方もセミナーにお呼びし、課題共有の機会となった。
研修やあいの実のプロジェクトに協力下さる地元の店舗や企業とも知り合い、支援の輪の広がりを実感。何よりも4月のカフェのオープンを前に、6人のママたちが心から就労と社会参加を楽しみにしている様子を観察できている。

2023年度まちスポ仙台助成金　採択団体の紹介

■団体について／NPO法人ペット終活サポートネット宮城

団体名：NPO法人ペット終活サポートネット宮城
設立年：2023年9月5日（NPO法人成立）
スタッフ：代表事理兼事務長，他理事2名，本部役員3名，広報2名，
イベント時の臨時お手伝いスタッフなどで現在は運営中。
設立時正会員13名（内理事3名，監事1名，本部4名）
普段の活動：法人設立初年度につき，ペット終活の普及啓発事業（ペット終活フェア，セミナーや相談会，バザーなど）の活動が中心。設立後すぐに「ペット終活フェア」を開催し，2024年１月から「飼い主さんサポート事業」を開始し，ユーザー登録受付中。

■申請事業についての紹介

【事業概要】 ペット終活の普及啓発事業の一つ「ペット終活フェア」の開催

【背景・問題】
高齢者や単身世帯の増加，ペットの高齢化が進む中で，高齢の飼い主が死亡や介護施設入所等により，ペットが放置・餓死，飼い主が遺棄したり，保護団体等が自腹で保護している事例が顕在化している。この目先だけの事後対応では，今後ますます行き場のないペットの増加や後見先確保に頭を悩ませる支援関係者が増えていくと懸念している。行政の施策も，飼い主のいない犬猫が主で，飼い主へは飼養指導に留まっている。
【課題】
1飼い主に，シニア期のペットライフに見通しを持つための，情報が少ない。
2問題が顕在化するのは，飼い主の孤立，飼養できなくなってから周囲が動くことが多く，飼い主自身による未然防止行動や備えが不足している。
3高齢家族や単身世帯は，別居家族が世話を引き継ぐとは限らず，信頼できるペットの後見先を後見先を自力で探すことは容易なことではない。
【手段】
ペット終活の具体策について提案・発信し，個別の相談・支援を行いながら，飼い主が孤立しないしくみを作る。今回申請した事業は，その第1歩として，NPO法人化の宣伝等を含めて広く広報するため，「ペット終活フェア」を開催する。

【事業の成果】
法人化（9月5日）と助成金採択決定（9月末）直後であり，10月9日の設定は準備が不十分だったが。NPO法人化の宣伝として第１歩を踏み出すことができた。
ねらいどおり，ペット飼養の有無に関わらず，幅広い年代や関心のある方々との縁をつくることができた。公募写真展やペットフード・用品バザーなど，参加や支援を予想以上にいただき，今後の活動を後押ししていただいたと感じた。

2023年度まちスポ仙台助成金　採択団体の紹介

■団体について／昔あそび＋

団体名：昔あそび＋
設立年：2017
スタッフ：代表、副代表、監査2名
普段の活動：・定期練習会（月1回）

・小学校や児童館などへのこま・けん玉のワークショップ

・イベントやおまつりでのこま・けん玉ワークショップ

・けん玉ワールドカップ宮城県会場運営(2021,2022,2023）

・こまの大会の開催

■申請事業についての紹介

【事業概要】
昔あそび＋第3回こま技大会

【背景・問題】
・こま、けん玉は「昔あそび」と呼ばれ現代では身近な遊びではない。
・様々な地域や年代の交流などが減少している

【課題】
・こまやけん玉の様々な技や楽しみ方の発信
・こまやけん玉で人が集まる場の提供
・大会形式でこまで競い合う楽しみの発信

【手段】
・定期練習会、交流会、大会の開催
・SNS、チラシ、ポスターなどを使い、幅広く発信を行う

【事業の成果】
・前回大会の倍以上の方の参加があり、たくさんの方にこまの楽しさを知っていただけた。
「昔あそび＋」の団体活動のこともたくさんの人に知っていただくことができ、新規入会者も増えた。
・県内外の方、年代の方とこま、けん玉のコミュニティと仲間を作ることができた。

2023年度まちスポ仙台助成金　採択団体の紹介

■団体について／団体名（手話サークル竹の子）

団体名：手話サークル竹の子
設立年：1974年
スタッフ：田中、柴田
普段の活動：
フリートーク
レクリエーション
イベント
ボランティア出向

■申請事業についての紹介

【事業概要】
「We connect　広がる手話のコミュニティ」　手輪縁　～雨後の竹の子～

【背景・問題】
ろう者の言語である手話やその手話でコミュニケーションができるコミュニティが衰退している

【課題】
・聴者しかいない手話サークルも存在し、そういったサークルの参加者はろう者と直に話す機会が少ないため、いざ、ろう者と話すときに手話を使えなかったり、怖気づいてしまったりするといった実態がある
・宮城県・仙台市内の手話サークル同士での繋がりが薄れてきており、それぞれのサークルが持つ悩みや課題を個々のサークルだけで抱え込んでしまっている

【手段】
・まずは宮城県あるいは仙台市内の地域の手話サークルの実態や課題を知るということを第一歩とし、その手段として手話サークル同士が繋がりを持つためのイベントを企画・実行しよう！そこで生きた手話を取り戻そう！

【事業の成果】
・竹の子だけでなく、所属や年齢、手話の習熟度などを超えた幅広い交流やつながりが生まれた
・耳の聴こえない子どもを持つ親が手話や対人関係などについての悩み解消や希望が持てる瞬間を感じることができたといったような感想をいただけた.
・手話の魅力を改めて感じる人が多かった

2023年度まちスポ仙台助成金　採択団体の紹介

■団体について／団体名（上書き）

団体名：ボランティアねこ活
設立年：2022
スタッフ：12名
普段の活動：保護猫活動

ボランティア ねこ活
～星空ねこの おうちさがし～

■申請事業についての紹介

宮城県の保健所・愛護センターに収容された成猫・傷病猫を迎え、治療し、新しい飼い主に繋ぐ活動をしています

【背景・問題】
長きにわたり代表個人として飼い主のいない猫を保護してきましたが宮城県の（仙台市も除く）保健所・愛護センターの現状を知り収容された逃げられない猫の保護活動にシフトいたしました。また宮城県の保健所・愛護センターに収容されていて助けられている猫の殆どは子猫であることを知りねこ活では誰も助けない成猫・傷病猫を救うことに専念することにいたしました。飼い主からの持ち込み収容が殆どを占めています。その中には多頭飼育による収容、また飼い主の高齢化に伴う収容など無責任な飼養により命を奪われる動物があとを絶ちません。
【課題】
課題は多くありますが、多くの原因の一つとして適正飼育がなされていないことにあります。無責任な飼養の結果多頭飼育による収容、その他飼い主からの無責任な持ち込みにより命を奪われる動物があとを絶ちません。無責任に命を奪うことがないように不妊去勢手術の徹底、適正飼養、また何年か先まで見通した飼養計画、また飼えなくなった時の対応まで個人個人が責任をもつことが課題となります。

【事業の成果】宮城県内の保健所・愛護センターから成猫・傷病猫の引取りを行うことで今まで見捨てられた命が多く救えたこと、特に愛護センターの成猫は当団体が関与以前までは殆ど一般の方のみの引取りと聞いています。子猫の引取り手よりはるかに手のあがらない成猫・傷病猫のみに限定し、引き取り、治療して新しい飼い主様に繋げることでまた新たに救える命が増える。それが大きな成果だと自負しています。
【手段】